

科目	日本経済論	担当	天野 圭二	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

日本は世界第3の経済大国であり、世界貿易において重要な役割を担っており、とりわけ東・東南アジア諸国の経済に大きな影響を及ぼしていることを正確に認識することが肝要である。本講義は、日本を経営するという視点に立ち、現在の日本を取り巻く状況を整理しつつ、これからの課題を探る。本講義の到達目標としては、以下を挙げる。

- 1) 日本経済の現状と特色に関する現状把握と一国の経済の分析方法を獲得する。
- 2) 経営学で用いられる概念を用いて、「日本という国家の経営」を論じることができる。

【履修注意】

- 1: 講義資料(図、表)を事前に各自のパソコンにダウンロードしておくこと
- 2: 毎回、オンラインクイズ(出席調査)を行うので、必ずパソコンを携帯すること
- 3: 教職課程(公民)の学生は必修科目である。

【評価方法】

期末テストの結果を基に、中間まとめ、毎回のオンラインクイズの結果を総合(期末試験8割、中間試験1割、オンラインクイズ1割)して評価を行う。講義への出席は学生の本業であるため、出席そのものに対する加点は無い。
公欠を除き、3回の欠席で期末試験受験資格を喪失する。

【試験について】

中間・期末ともに配点は選択式問題60点、穴埋め式問題20点、論述式問題20点の計100点満点
再試験対象者の条件: 期末試験受験対象者であり、かつ期末試験で30点以上を取っていること

【予習・復習】

毎週90分以上、オンライン問題集に取り組むこと。

【教科書】

WBTで配信する

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	日本経済の岐路	経営学部生に向けた日本経済の解説として、国家の経営者としての政府という視点を提供する。戦後の日本経済史を振り返りながら、時の政府はどのように経営判断を下してきたかを見ていく。
2	バブルから失われた20年まで	第1回では70年代前半までの歴史を振り返るので、第2回では70年代以降の日本経済史を解説する。バブル経済の起点と帰結を行動経済学の観点を用いて補足する。
3	地方経済の発展過程	地方経済の「偏り」の現状を紹介し、その理由を説明する。地方自治における財源の仕組みと地方分権、地方行政改革の流れにまちづくりという概念を位置づける。
4	財政政策1	日本の財政の現状を紹介し、日本政府の景気対策の手法を概観する。基礎的財政収支をめぐる議論も紹介する。
5	財政政策2	所得再分配機能の状況を解説し、社会保障制度の在り方について、考え方の違いを解説する。関連して、税と社会保障の関係について、現状の議論を整理する。
6	財政政策3	現行の財政政策の背景要因について、人口の減少と豊かさの維持の両立という観点を示す。超高齢社会・人口減少がもたらす市場変化の中で、経済成長を実現する方法について、生産性、技術革新、女性・外国人労働力の活用の現状を論じる。
7	中間まとめ	戦後の日本経済の流れを把握したうえで、前半の重点課題として、財政政策の現状についての理解を深める。
8	日本の金融の現状	「商品の提供者と購入者を結び付ける道具」としてのお金とその機能を考える。金融の資金配分機能、リスク配分機能についても紹介する。
9	金融政策1	家計の金融資産の変遷を手掛かりに、日本人の資産保有の特徴を紹介する。日本におけるマネタリーベースとマネーストックの現状を述べる
10	金融政策2	世界的な資金循環の中に日本を位置づけ、アメリカの影響力の大きさについて論じる。90年代以降の金融経済のグローバル性と日本の金融政策の変遷を紹介する。
11	これまでの戦略、これからの戦略	日本の経営者としての政府という観点で、戦後経済史のターニングポイントを分析する。ドラッカーのネクストソサエティの議論に基づいて、議論を進める。
12	これまでの戦略、これからの戦略2	グローバル競争下での経済連携について、日本が取り組むFTA、EPAを紹介する。経済連携への対応という意味での国内の政策転換・構造改革についても紹介する。
13	現代の日本企業と労働者の関係	景気回復と給与の上昇が連動しないのはなぜかを労働分配率の議論を用いて論じる。日本的経営の特徴とその多様化・希薄化について解説する。
14	グローバリゼーションと日本経済	世界で最も急速に超高齢社会に突入した状況から、今後の日本の未来像を考える。「グローバリゼーション対応」を軸に取り組むべき課題、対策方法について、事例を紹介する。
15	グローバリゼーションと日本経済	第14回の続き。最後に、講義全体を再度概観する。
16		